

テレジン収容所の若き画家たち

アウシュヴィッツで幼い命を断たれた子どもたちの絵



提供 野村路子

2022年

9月18日 日

講演会

14:00～16:00 (13:30開場、事前申込)

展示会

16:00～17:00 (申込不要、入退場自由)

参加
無料

講師 ● 野村 路子 氏

(テレジンを語りつぐ会代表)

会場 ● 永福和泉地域区民センター
2階 第1～3集会室

対象 ● 区内在住・在勤・在学の方

定員 ● 80名 (申込順)

お申し込み ● 9月1日(木) 必着

メールまたは往復はがきに、①講座名、②郵便番号・住所、③氏名(フリガナ)、④電話番号、⑤メールアドレスを記入して、以下の宛先までお送りください。

メール sugiyu70@gmail.com

はがき 〒167-0043

杉並区上荻 2-34-10 山田正方

メール申込
はこちら▶



お問い合わせ ●

杉並ユネスコ協会 小泉

090-3518-9557

杉並区社会教育センター

03-3317-6621

戦争と平和について考える



アウシュヴィッツ強制収容所への中継点、チェコのテレジン収容所には、1万5000人のユダヤ人の子どもたちが収容されていました。子どもたちは、勇気ある大人たちの努力で、絵を描き、詩を綴り、この世に生きた証となる作品を残しました。テレジンの極限状態のなかで行われた教育を知ることにより、改めて平和の尊さを考えます。野村路子氏による講演のほか、会場では子どもたちの描いた絵の複製パネルも展示します。

Terezin Concentration Camp

テレジン収容所とは

チェコ首都プラハから北へ60キロほど離れた小さな街、テレジン。1941年から1945年までナチス・ドイツの強制収容所が置かれていました。テレジンに送られてきたユダヤ人は、およそ14万4000人。その4分の1ちかい3万3000人が病気、飢え、過労、そしてドイツ兵による暴行や拷問、刑罰などによりテレジンで亡くなり、8万8000人がアウシュヴィッツなどの絶滅収容所に送られ、そのガス室で殺されました。



Michiko Nomura



講師 野村 路子 氏

「テレジンを語りつぐ会」代表

コピーライター、タウン誌編集長を経て、新聞・雑誌にエッセイやルポルタージュを執筆、その後NHK・FM浦和でパーソナリティを務める。1989年、プラハでテレジンの子どもたちの絵と出会い、その事実を伝えようと、チェコ大使館、ユダヤ博物館などと交渉。1991年から日本で「テレジン収容所の若い画家たち展」を開催。数少ない生き残りの人たちへのインタビューをかさね、展覧会、執筆、講演活動を続けています。

掲載した説明・紹介文は、「テレジンを語りつぐ会」ホームページより引用、または参考にさせていただきました。写真の一部は野村路子氏より提供していただきました。

「テレジンを語りつぐ会」ホームページ
<https://www.teresien.jp/>

会場アクセス

永福和泉地域区民センター
 (杉並区和泉 3-8-18)

京王井の頭線 永福町駅
 北口より徒歩 5 分

永福和泉地域
 区民センター

三菱 UFJ 銀行

三井住友銀行

井ノ頭通り

北口

永福町駅

至吉祥寺

龍光寺

東京都
 水道局
 和泉庁舎

至渋谷